

第30回 コンクリート工学年次論文奨励賞を受賞！

李 春鶴 助教

李助教の受賞した年次論文奨励賞は、平成20年7月9日から11日に福岡国際会議場で開催されたコンクリート工学年次大会においての受賞である。本年次大会は、土木・建築・セメント化学分野のコンクリートの研究者および技術者が約1.5千人参加して、年に一度、一同に会して開催されるものである。研究発表のための論文投稿には査読があり、例年、レベルの高い研究発表が行われる定評のある大会である。この大会において、特に優秀な論文についての講演を行った40歳未満の者を対象として、年次論文奨励賞が授与される。本年は、69名が受賞された。2006年の受賞以来、2度目の受賞になった。

今回の受賞は、東京大学の石田哲也准教授と本学の半井健一郎准教授との連名で「複数の物理化学的分析を組み合わせた硬化コンクリートの配合推定方法の提案」を発表し、本賞を受賞した。本研究は、コンクリートの基礎的情報である配合を硬化後のコンクリートから分析する方法を開発したものである。コンクリートの配合とは、コンクリートを構成するセメント、水、細骨材、粗骨材の割合のことで、コンクリートの性能を決定する重要な情報であるが、一旦固まってしまうと推定が極めて難しいものである。これまでの推定手法には適用範囲や精度に課題があったのに対し、李助教らが開発した手法は、幅広い材料に対して高い精度で適用可能なものである。現在、既存構造物の性能評価が各地で必要とされており、李助教らが開発した推定手法の活躍の場はますます広がっていくものと期待される。

